

音楽科学習指導研究委員会

一 研究テーマ

『意欲的に表現する子どもを育てる学びのファシリテーターとしてのあり方』

二 テーマ設定の理由

本委員会では、昨年度まで『思いや意図をもって、意欲的に表現する子どもを求めて』のテーマを継続的に掲げ実践を積み重ねてきた。昨年度の教育課程研究協議会の授業実践を通して見えてきたことが、下記の①～④である。その中で課題として見えてきたことは、下記②④の『教師の支援の仕方』についてであった。

- ①子どもたち一人ひとりが願いを持ち、歌唱表現を追究していく授業を行うことで、コロナ禍以前のようなのびやかな歌声を取り戻し、表現することの楽しさを子どもたちが感じる事ができた。子どもたち一人ひとりが思いや意図を持ち、こだわりを持って友と関わりながら追究する姿が見られた。
- ②楽曲のイメージの持たせ方について、一人ひとりの思いや願いを考えていく段階で、イメージが固定しないように、様々なイメージが膨らむような支援をしたい。
- ③グループ学習の持ち方について、さらに追究を深めるための進行の仕方や、友だちの表現を聞いた後、一人ひとりが自己の表現と向き合ったり、自由に試し歌いをしたりする時間の確保ができるようにしたい。
- ④子どもたちが考えた様々な曲想表現から音楽的要素を意識した表現へと発展させていくための支援について考えていきたい。

今年度は、『教師は教えるプロである』という意識から『教師は、学びのファシリテーターである』という方向にシフトしていくために、教師の支援を研究テーマに設定し、教育課程の授業校である和小学校の授業から学んだ。

三 研究の経過

第1回	5月	2日	第1回総委員会	研究のテーマ設定・計画の立案（於：教育会館）
第2回	6月	7日	事前研究授業参観	（於：東御市立和小学校）
第3回	7月	9日	教育課程授業の教材研究	（於：東御市立和小学校）
第4回	9月	3日	教育課程研究協議会	（於：東御市立和小学校）
第5回	11月	1日	音楽科学習指導研究委員会研究のまとめについて	（於：教育会館）
第6回	11月	25日	第2回総委員会	研究まとめについて（於：教育会館）
第7回	1月	14日	本年度のまとめ・発表について	

四 研究の内容

東御市立和小学校 音楽科学習指導案

日時	令和6年 9月4日(水)	9:15~10:00
題材名	『花火の音楽をつくろう』	(教材名「クロックミュージック」)
授業学級	3年松組	24名
指導者	長野県教育委員会学びの改革支援課	指導主事
授業者	東御市立和小学校	教諭
授業会場	音楽室	

I 研究テーマ

<全校研究テーマ>

子どもたちが主役の授業

<音楽科研究テーマ>

一人一人の感じ方考え方をつなぎながら子どもたちと共に学んでいく音楽の授業
～音楽づくり・鑑賞を通して～

<音楽科テーマ設定の経緯>

ここ数年の社会全体のさまざまな状況変化に大きな戸惑いを感じながら、「教師は教えるプロである」という意識から、「教師は、学びのファシリテーターである」という方向にシフトしていくために、音楽の授業はどうあったらよいのかを日々迷いながら模索してきた。

今年度は、子どもたちの自由な感じ方考え方を受け止め、教師がそれをつなぐファシリテーターになりながら、子どもたち同士、さらには教師自身も音楽的見方、考え方を働かせて学びを深めていく音楽の授業づくりをめざしたいと考え、本テーマを設定した。

II 学習指導案

1 題材名 『花火の音楽をつくろう』 (教材名「クロックミュージック」)

2 題材設定の理由

子ども達は1学期の学習「お気に入りの三三七拍子をつくろう」や、授業の準備活動での即興的な4拍のリズムリレーで音楽づくりを経験している。おもいおもいに四分音符を八分音符に置き換えながらリズムづくりを試し、友と交流する中でさらに「自分のつくったリズム」に愛着を持つと同時に、自分とは違う「友のつくったリズム」のよさや面白さにも気づき、「反復」「変化」の仕組みを活かした音楽づくりの楽しさを味わってきた。即興的な4拍のリズムリレーではリズム打ちだけでなく、床をこすったり、かけ声や鳴き声のまねや連打をしたり、ボディーパーカッションなどの身体表現も入れて、個性豊かに楽しむ姿が見られた。

また、和リンピック(運動会)に向けた体育の表現の中では、グループでイメージした花火を体で表す動きづくりをしたり、国語の教科書教材「はなび」の学習の中でどのような花火なのか、個々にイメージしたものを共有したり、夏休みの日記や出来事の紹介の中で花火の体験をお互いに伝え合うなどして、花火に関わる学習や活動を行ってきた。

そのような子ども達にとって、「クロックミュージック」のコンテンツを用い、自分ひとりで自由に複数の楽器の音(「音色」)を選び、「強弱」や「音の重なり」を手がかりに、試したり、すぐ聴き返したり、くずしたり、変えたりしながらイメージした花火の音楽を工夫してつくっていく学習は、創造性を発揮しながら自

分にとって価値のある音や音楽をつくっていくことにつながるであろう。また、友との自由な交流により、自分とは違う音色の組み合わせや強弱表現、音の重なりや構成のよさ、面白さに気づき、さらに自分の音楽を見返していくことができるだろうと考える。そして、教師自身が子どもたちの自由な感じ方考え方から学び、子どもたちと共に音楽的見方、考え方を働かせて学びを深めていく音楽の授業づくりにつなげていけるのではないかと考え、本題材を設定した。

3 教材「クロックミュージック」におけるコンテンツ活用の価値

今年度から教育芸術社の3年生の教科書に掲載された教材で、併せて各自の端末で音楽づくりができるコンテンツも採用されている。

これまでの楽器の音色をいかした音楽づくりは、音楽室にあるさまざまな楽器を用い、奏法を工夫しながら、友と一緒に考えたり表現したりできるよさがあった。しかし、同時に技能が伴うため、思うように表現できない場面があったり、グループ内の雰囲気や、人間関係に左右されたりすることも少なからずあった。

このコンテンツは、限定された中ではあるが、自分が思うように楽器の選択や強弱の選択ができ、ひとりで自由に考え、4つの楽器の音をタブレットで操作しながら音楽に構成していくことができる。また、つくったものを何度でも再生して自分で味わい、試行錯誤をし、再構成していく意欲的な音楽づくりの取り組みができるのではないかと考える。できあがっていく音楽は多様で唯一無二なものであり、互いに鑑賞しあうことで、友だちと自分の作品のそれぞれのよさに気づくと同時に、教師もその発想や学習への取り組む様子から、子どもたちに大いに学ぶことができるのではないかと思える教材である。

このようなICTの活用は、音楽科における探究型学習の新たな窓口になると考える。この学習経験が、今後さらに、友と一緒に実際の楽器を奏でながら行う音楽づくりへの意欲のもとになったり、奏法の違いによる工夫への気づきに発展していったりするのではないかという期待も持てる。

4 題材の目標

(1) 身近な打楽器の音色の違いを感じ取ったり、音の重ね方による響きの違いに気づいたりしながら、自分なりのイメージやアイデアを基に打楽器の音の響きやその組み合わせを試したり、それらの重ね方やつなげ方を工夫したりして、時間の流れに合わせて音楽をつくる技能を身につける。

(「知識及び技能」の習得)

(2) 音色、強弱、音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように自分のイメージした音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。

(「思考力、判断力、表現力」の育成)

(3) 身近な打楽器の音に親しみ、楽器の音色や重なり合う音の響きに興味を持ち、主体的・協働的に音楽づくりの活動に取り組む。

(「学びに向かう力、人間性等」の涵養)

5 題材の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近な打楽器の音の響きの特徴、音のつなげ方や重ね方の特徴に気づき、音を選択して表現する技能や音楽をつくる技能を身につけて音楽をつくっている。	音色、強弱、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、音を音楽へと構成することを通して、どう自分のイメージする音楽をつくっていくか思いや意図をもっている。	身近な打楽器の音に親しみ、楽器の音色や重なり合う音の響きに興味を持ち、主体的・協働的に音楽づくりの活動に取り組んでいる。

6 題材の指導計画（4時間扱い 本時は第3時）

時	学習内容	知・技	思考表	主体的
第1時	○ 身近な打楽器とその奏法について知り、音色の特徴に気付く。 ○ それらの打楽器を用いて、即興的に表現し、音の響きの特徴や面白さに気付く。【演奏聴取 発言 活動の様子 ワークシート】	○		
第2時	○ タブレットを使った、音楽づくりについて知る。 ○ 自分のタブレットで自由な発想で即興的に音楽をつくり、友と交流しながら、「音色」「強弱」「音の重なり」について聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考える。 【活動の様子・発言内容・ロイロノート提出箱・ワークシート】	○		○
第3時	○ 「花火」の音はどんな音だろうと考え、自分の花火の音のイメージを持つ。 ○ 「音色」「強弱」「音の重なり」を考え、音を音楽に構成しながら、自分のイメージする15秒の花火の音楽をつくる。 【発言・つぶやき・活動の様子・タブレット操作・ワークシート】		○	○
第4時	○ 自分の花火の音楽を完成させ、友と紹介し合う。 【活動の様子・発言内容・ロイロノート提出箱・ワークシート】	○	○	○

7 本時案

(1) 主眼

さまざまな花火の音をイメージした子ども達が、「クロックミュージック」のコンテンツを活用し音楽をつくっていく場面で、「楽器の音」「強弱」「音の重なり」を考え、おもいおもいに試しながら選び、つくり、聴き返し、くずし、変え、工夫することを通して、より自分のイメージに合った花火の音楽をつくっていくことができる。

(2) 本時の位置 題材展開参照（4時間扱い中第3時）

(3) 指導上の留意点

- ・「クロックミュージック」のコンテンツは、何度も試しながら、音を音楽に構成していきやすいように15秒の設定とする。

(4) 展開

	学習活動	「予想される児童の反応」支援・評価	時間	備考
導入	1 花火の音ってどんな音かな？	○花火の音をイメージする。 「ドーン」「バーン」「バンバンバン」「ヒュー」「シュワシュワ」「ポトン」「パチパチパチ」「ジュワー」「パラパラパラ」 ・音をイメージすると共に、どんな花火なのかを問う。 「打ち上げ花火」「スターマイン」「線香花火」「手持ち花火」「ネズミ花火」・・・ ○子ども達の反応をとらえながら、楽器の音（すず・トライアングル・タンブリン・カスタネット・ギロ）・強弱・音の重なり工夫の意欲と見通しへつないでいく。	8	詩「はなび」の学習、児童の日記、花火の絵や写真等の掲示や準備

めあて 自分の花火の音楽をつくろう（楽器の音・強弱・音の重なりを工夫して）					
展開	2	自分の「花火」の音楽をつくろう	<p>○試しながら自分の花火の音楽をつくっていくように伝える。「クロックミュージック」 15秒</p> <p>「楽器は選べたよ」</p> <p>この4つの楽器の音を選んだね。さあ、どんな花火の音にしていくのかなあ。どんな花火になるか楽しみだなあ。</p> <p>「花火みたいにきれいに並べたいな」できたところまで、音を聞かせてくれる？目をつむって一緒に聴こう。どう？</p> <p>「(友だちのようすをうかがい、気にしている)」</p> <p>近くにいて、音を聴いてきていいよ。同じところやちがうところはありそう？なるほど。</p> <p>「だんだん音を小さくして花火が消えていく感じにしたよ」</p> <p>同じように考えた友達がいるかもね。見てくる？</p> <p>「音のないところもあるよ」なるほど、いいね。どうしてそう思ったの？花火は消えるから、音が何も無いんだね。</p> <p>「○○さんと同じみたいなところがある。」</p> <p>ほんとだ。別々につくっていて同じ感じになるなんておもしろいね。どうして同じになったのかな？</p> <p>○試している場面で、なぜそのような楽器の音（音色）・強弱・重なりをしているのかについてまず、児童の考えに心を寄せて見つめ、共感し、問いかけ、児童の音楽的な見方考え方に働きかける。また、自然に友との関わりが生まれるよう、自由な交流を促す。その中で、教師が、児童の気づきを広げる支援も行う。</p>	30	タブレット
<p>楽器を選び、強弱や音の重なりを試しながら、音を音楽に構成し、自分の花火の音楽をつくろうとしているか、活動の様子・つぶやき・発言・表情・タブレット操作から評価する。</p> <p><じっと考え、どのような音楽をつくっていかうか構想したり迷ったりしている姿から></p> <p><つくっては聴き、他の音に置き換えたり、強弱をかえたりしている姿から></p> <p><音に注目して確認し、自分の音楽をよりイメージする花火の音楽に近づけようとしている姿から></p> <p><友だちのアイデアに共感するつぶやきから></p> <p><友だちの気づきから、自分のつくっている音楽を再度見返している姿から></p> <p><友だちと一緒に自分の音楽を聴いて、一緒に音楽のよさや面白さを共有している姿から></p>					
			<p>○ 児童のつくった音楽を取り上げ、共有する。</p> <p>・つくった児童に思いや意図を聞いた上で、楽器の音、強弱、音の重なりによさ、面白さをさらに問うようにする。</p>		
まとめ	3	今日の学習を振り返ろう	○どんな花火の音をイメージしてつくったのか、つくってみてどうだったかを振り返る。	7	

<研究会で話題にしてほしいこと>

- ① 教師がファシリテーターとなり、子ども達の自由な感じ方考え方を受け止め、問い返し、友とつないでいく授業づくり
- ② 題材を「花火の音楽をつくろう」としたこと
- ③ 「クロックミュージック」のコンテンツを用い、ひとりで音楽づくりをしたこと

8 研究テーマから見えた具体的な児童の姿

教師の支援・発問から見える児童の動き (Aさんの例)

≪Aさんの工夫に気づき、それを言語化して認めたことで、自信を持って先に進めていくAさんの姿≫

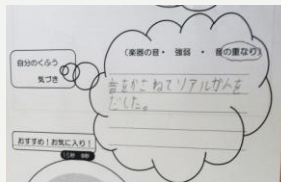
- ・ロケット花火を表現したいと願ったAさんは試行錯誤を繰り返す。一通りできあがったが、「なんだか花火と思えないんだよな」とつぶやいている。それを見た坂口先生が「この中で自分がいいと思うところはどこかな? × (タンバリン) のあたり?」と声をかけた。それを受けてBさんはもう一度再生する。先生がすかさず「**本当だ! タンバリンでバンバン花火がなってる気がするよね**」と褒める。無意識かもしれないAさんの工夫を教師が言語化し、褒めて認めることで、その良さにあらためて気づいたり自覚したりすることができ、自信をもって次の活動に移ることができた。

≪「まぜてみたら?」という一言のヒントで、さらに表現を深めたAさん≫

- ・次の場所を指して「ここは、変えなくていいと思ってるんだけど、でもな〜」と悩んでいる様子。先生がそこで「**まぜたらどうかな?**」と一言。先生が去った後、さっそく×と□を一緒に重ねてやってみると、「おっ! さっきより聞こえるかんじになった!」と喜ぶ。その後学習カードに『(自分の工夫したところは) ロケット花火のバババに、タンバリンとギロを重ねた』と書き、満足そうに友達と聞かせあい、感想を言い合う姿が見られた。また友達と「同時に打ち上げてみる?」と音を重ねて聞いたあと、二人で顔を見合わせて「いいかも!」と満足そうに笑いあう姿も見られた。

教師の支援・発問から見える 児童の動き Bさんの例

B生は、1種類ではなく、音(すずとタンバリン)をまぜて作った
↓それを教師が全体に広めた 必要な児童が見に来た。
↓B生の音源を聞きにきた児童が『まぜると花火の音がした』
↓その言葉を聞き、うれしそうな B生
↓まとめとして、自分のくふうのところに
『音を重ねてリアル感を出した』と書いていた。



ファシリテーターの役割

- ★児童の気づきをまわりに広める
- ・いいなあと思った児童は、それを自分の音楽に取り入れる。
- ・紹介された児童は、とても自信がつく。

C児の動き

教師

好きなところでやっていいから

んー何かちがう



全部同じにしようかな。
花火だからダメか



はじめてで、ヒューもむずかしい



花火じゃないよ、普通の
アップミュージック
になっちゃった

最後は消えていくよ
うに小さくした



教師

打ち上げのいろんな音の、
見に来たい人どうぞ

(行かず隣の子の画面を見る)
なんかよくわかんない



(本人に) ここはどんな感じ?

最後は水の中に沈ん
でいく感じにした



花火・変化・構成を意図できている姿
わからないとつぶやき4回は消して試行錯誤する姿

教師とのやり取りで自信を持ち、音を重ねていったDさん

自分のつくった音楽に自信が持てないDさん

～教師TとDさんとのやり取りから～

T「Dさん。音を聞かせて」
D「～音を鳴らす～」
T「音を混ぜたみたいだけど、何の音？」
D「タンバリンとカスタネット」
T「へー。何で混ぜたの？音が小さいけど、どうして？」
D「(花火が上がって)シュルルルっていうところだから」
T「なるほど。もうちょっと入れたい音ある？」
D「すず」
T「いいねー」

ファシリテーターの役割

子どもの思いを受け止める



ことばで引き出す(確かめる)



整理する、子どもへ返す



次の課題へ導く、助言、支援

花火が打ちあがる様子を音で表現していることを明確にし、認めてもらえたことで自信を持てたDさん

次の課題「さらに音を重ねる」学習課題へと進めた

9 参会された先生方からのご意見 ～本研究のテーマにかかわる部分～

- ・子どものつぶやきを一つも残らず聞き逃さないという姿勢が素晴らしく、導入の場面がとてもよかったと思います。子どもたちも早くやりたいという気持ちが高まっていたと思います。
- ・ファシリテーターとして子どもたちをつなぐ教師というところにハッとさせられました。子どもの声や想いを大事にして関わっていらっしゃる先生の関わり方が素敵だと思いました。
- ・子どもたちはいろいろな思いを持っているので、ファシリテーターという方向への我々のシフトが子どもたちの可能性を広げると思いました。

六 音楽科学習指導研究委員会 活動のまとめと来年度への課題

活動のまとめ

①教育課程授業校から学ぶ

・事前授業・教育課程授業の教材研究・教育課程当日の授業に参加させていただき、研究を進めることができた。和小学校の児童の意欲的に表現する姿が、どのような教師の支援により生まれているのか参考になり、今後の授業作りにつながる研修ができた。

②教育課程の研究協議Ⅱでは、音楽科学習指導研究委員会で、ICTについて各校の取り組みの様子をグループで語り合ったり、音楽科としての行事のあり方、日々の悩みを語り合ったり、情報交換する有意義な時間を設定することができた。

③今年度、音楽科学習指導委員会は発表の場をいただき、委員全員で協力して発表内容をまとめ、発表に向かうことができた。

来年度への課題

① 教育課程に準じて教えてくださる筑波大学の先生による研修をお願いしたい。（平野先生）

② 器楽でリコーダー以外の楽器が増えてきているので、専門の楽器講師をお呼びして技能や調整を教えていただく研修や、主幹指導主事の先生から授業を受けたいという意見もある。

③ 音楽科1名体制の学校が多いので、県教委からの事例の提案に加えて、今年度のように情報交換する機会は大事にしていきたい。

④ 一人一公開で、学校を超えて授業を見合う機会がほしい。